

肥料好きが
惚れた!

生モミガラは、 タダのケイ酸肥料

新潟県十日町市・柳 茂さん

捨てる人あれば、捨う人あり。
捨う人は、モミガラのケイ酸に目をつけているようだ。



柳茂さん(63歳)。
運転手をしながら、
2.4haの田んぼでイ
ネをつくる



「あんまりモミガラを宣伝するとマズイんだよな」と渋る、柳茂さん。これまで購入肥料をじやんじやん使つてきただが、今あらためて、身近にあらモミガラの効果を見直したところ。

スポンジのような土に憧れて

じつは柳茂さんとモミガラとの付き合いは長いぶん長い。三六歳の頃だから、もう二十五年以上になる。その年に視察に行つた、富山の農家の田んぼの土に惚れたのがきっかけだった。
「もとの土質だつて違うんだろうが、その土をギュウッと握つたら、スポンジのように押し返してきたんだよな」他のことは忘れてしまつたが、自分

の家の泥っぽい田んぼとは全然違う土の感触は今でも覚えている。一〇aに一ha分のモミガラを入れているところなるらしい。これなら田んぼが乾きやすくなるだろう。苦労してきた泥田のイネ刈りがラクになりそうだ。

ところが、父親に話すと「モミガラを入れるヤツはバカだ!」と叱られた。この辺りでは昔から「モミガラを入れると土が冷える」と言つて、春の寒いうちに苗を植えたときのように初期生育が悪くなるのだそうだ。確かに、毎年秋にモミガラを田んぼで燃やす仕事があつた。でも、はたして本当に障害が出るのだろうか。

翌年、父親の目が届かない遠くの小さな田んぼで試してみた。そのときは



丸1年野積みした柳さんのモミガラ。腐らず、きれいな舟形。田んぼの土の物理性の改善にも役立つし、約17%あるケイ酸成分（生重量での値）もイネに効いているはず

ちょっと控えめに一〇aに五〇a分ほど
のモミガラを散布して、すき込んだ。けれども、「土が冷える」様子はない。心配していたガスわきもない。おそらく、モミガラがイナワラと違つて急には腐らないからだろう。これなら一〇aに一ha

分以上まいても大丈夫そうだ。

「秋に生で」が安心

モミガラは、今でもイネ刈り後の田

が硬くなつた頃にまいている。トラクタに、ライスセンターから有償で借りたモミガラ散布機（熊谷農機「ぬかまきまい太郎」）を取りつけて、田んぼに縞を描くように落としていく。量はその年の作業の都合で増減するが、足の踝がモミガラで埋まるくらいだ。まくのは一年に一枚ずつ。雪の降る十日町では、冬までの土が乾いている時間が短いのでそれ以上はできない。一枚の田んぼには六年に一ぺんしかまけないが、それでも別にいいと思つていい。

「だいたい三年だな。モミガラがもとの舟形のまんまで田んぼに残つているのは。一度入れるとそのくらい長いこと効いてると思つてるんだ」
このやり方でイネに障害が出たこと

は一度もないが、発酵モミガラでは大失敗した経験がある。モミガラとエノキの廃菌床、米ヌカ等の有機物を混ぜて積んでおき、翌春に生モミガラと同じくらいの量をまいたとことだ。ある年はものすごくガスがわき、他の年はチツソが効きすぎて倒伏。大量に

入れるとなると、他の有機物が入つていいのかもしれない。

結局、いい塩梅の量がわからず、発酵モミガラは三年でお蔵入りになった。

ケイ酸成分に注目

こうしてモミガラをまき続けるうちに、二～三年すると土に弾力が出てきた。そして、そのうちモミガラの新たな魅力を発見した。モミガラを入れた翌年の田んぼが、まるで肥料を余計にまいたかのように、〇・五～一俵ほど反収が上乗せされるようになった。

「試験したわけじゃないからわからんが、モミガラのケイ酸が効いてるんじゃないか」

今、柳さんがモミガラに期待しているのは、物理性をよくすることよりも、このケイ酸資材としての効果だ。

モミガラは 緩効性のケイ酸資材

イネにとってのケイ酸を意識し始めたのは薄井勝利さんの「疎植水中栽培」に夢中になってから。

「疎植水中栽培」では、ケイ酸質肥料



チツソの量はどちらも変わらないが、この違い。昨年モミガラをまいた田んぼは明らかに穂が大きい



ケイ酸肥料を入れたイネは止め葉が立つ。モミガラをまいたところでも、確かに豪雨にも負けず垂直に立っていた



121粒の大きな穂

の「ソフトシリカ（ケイ酸成分は七三%）」を必ず散布する。最初の二年は元肥に一〇a一〇〇kg。以降は、苦土資材やリン酸資材とセットで出穗五〇日前に追肥で二〇kg。それに従い、柳さんもやつてきた。

確かに、ケイ酸を効かせたイネは出来がいい。細かいことは確かめたことがないが、収量だって安定して一〇俵以上とれるし、茎が硬く、粒張りのいいのは明らかだった。薄井さんの言うように、光合能力が高まつたり、吸肥力が高まるのだろうか。

「あれはいい肥料なんだ。コシヒカリが一俵二万六〇〇円で売れる一〇年前なら、使い続けたいんだが……」

多少値が張ろうが、いい資材なら積極的に取り入れてきた柳さんも、「これじゃやつてけない」とコスト減らしに取り組み始めたところ（二

〇一三年三月号も参照）。

じつは、モミガラにケイ酸成分が含まれていることも薄井さんに教わった。この量を勘定してみると、すぐには効かないのだろうが、バカにならない量が入っていることになる。

ケイ酸は消えるものでもないし、気長に待てば、ゆっくりと溶け出てくるはずだ。それで、思い切ってソフトシリカをやめてみた。

穂が大きい、止め葉が硬い

数年たつても、イネの生育が悪くなつた様子はない。実際、昨年の猛暑でも全量一等米だった。

今年もモミガラの効果が出てほしいような天氣だ。七月中～下旬はうだるような暑さだったが、出穗後にはうつて変わつて雨が続いた。周りのイネと同じように、柳さんのコシヒカリもなびき始めた。まだイネ刈りは一五日後。後の作業を思うと暗い気持ちにな

Jiffy サカタのタネ

健康な苗ができる! だから収量ふえる。

Preforma[®]
成型培養土

プラントプラグ[®] PLANT PLUG

プラントプラグはココ
纖維とヨーロッパ産
ピートモスを混合した
培地に水分、成型剤を
加えてトレー内で成型
させた最新タイプの「成
型培養土」です。

若苗では
根が崩れて
植えにくい
という方に…

根が
廻らなくとも
崩れません

トルコキモヨウ (左: 通常60日苗 右: PP30日苗)

株式会社 サカタのタネ
資材統括部
〒224-0041 横浜市都筑区仲町台2-7-1
TEL 045-945-8806 FAX 045-945-8807



前年秋にモミガラをまいた柳さんの田んぼの止め葉。大きいうえに、硬い。モミガラなしの近所の田んぼは止め葉が小さく、軟らかい

「正直、見せたくねえな」と言いつ
案内してくれたのは、前年秋にモミガ
ラを入れた田んぼ。ここだけは他の柳
さんの田んぼに比べてあまり倒伏して
いないし、隣の五年前にモミガラをま
いた田んぼと比べても大きな穂がつい
てている。

それから、止め葉も目立つ。葉が長
いわりに、硬いので立っているから
だ。葉っぱの硬さを確かめ、柳さんも
いくらか安心した様子で、「ケイ酸を
入れた田んぼは、こういう曇天でも稔
るんだ」。